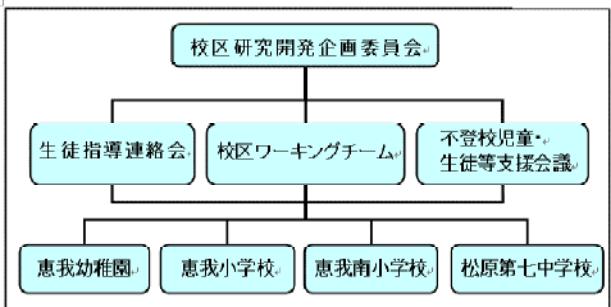


研究開発の内容

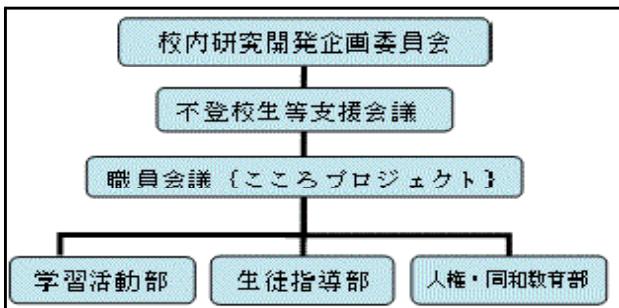
1. 研究組織

1) 松原七中校区



組織の要は、校区研究開発企画委員会である。ここで、研究計画や研究内容等を企画、立案を行っている。校区で子どもを育てるという目的で、6年前に立ち上げた「校区連絡会」が発展した組織である。各校では、「校内研究開発企画委員会」を発足し、取組を進めている。校区のプログラムづくりのための「校区あいあいプロジェクト」を発展させ「プログラムワーキング」「効果測定ワーキング」「実態把握ワーキング（報告冊子づくりも担当）」の三つのワーキングチームに再編成しなおした。不登校児童・生徒支援は、「校区不登校児童・生徒等支援会議」で、また、子どもの実態交流や進路等については、「生徒指導連絡会」で論議し、取組を進めている。

2) 松原市立松原第七中学校

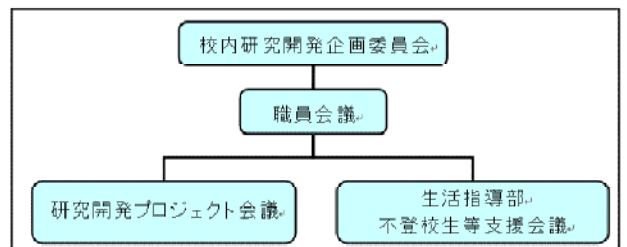


松原七中では校内に研究開発主任・教務・こども支援コーディネーター・人権同和教育担当・生徒指導担当・学年代表・各学年より1名・情報教育担当・事務職員からなる校内研究開発企画委員会を設置し、研究開発の中核を担い、校区連携の窓口としている。不登校生支援については、管理職・こども支援コーディネーター・生徒指導担当・養護教諭・人権同和教育担当・スクールカウンセラー・研究主任・教育アドバイザー・学年代表による「不登校生等支援会議」（週1回）を設置し、研究推進の中核組織としている。また、全教職員で人間関係学科の推進、不登校生への支援に

ついて検討する「こころプロジェクト」（職員会議内に位置づけて）を月1回実施している。

さらに、運営指導委員会や松原市不登校児童・生徒総合支援会議、松原市教育支援センター（チャレンジルーム）等の学外関係組織との連携も強めている。

3) 松原市立恵我小学校

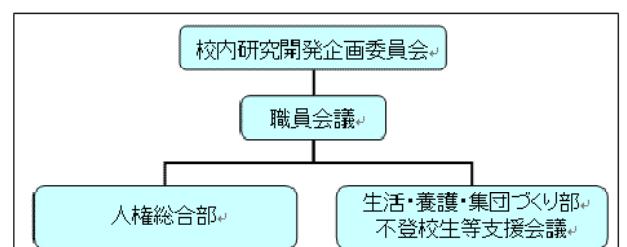


恵我小では、管理職と研究担当、人権教育担当、教務、校内プロジェクトとチームリーダーからなる校内研究開発企画委員会を設置し、研究体制の確立や校区の連携・調整の中心を担っている。

校内プロジェクトチームは「授業づくり」「データ分析」「実態把握」の3つからなり、校区のそれぞれのワーキングチームに対応しながら、校内でプログラム開発、効果測定、不登校生等を中心とした気になる子どもの情報共有を行っている。

不登校及び長欠児童の支援については、月1回の生活指導部会において子どもの実態を交流し、さらに校内不登校生等支援会議において、子どもと担任への支援について検討している。

4) 松原市立恵我南小学校



恵我南小では、研究主任、教務、人権・同和教育担当、生徒指導担当、各学年より代表1名、情報教育担当、事務職員からなる校内研究開発企画委員会が、校区連携や研究開発の中心を担っている。また、人権総合部を中心に、「校区プログラムワーキング」と連携し、プログラムづくりを進め、また、校内授業研究や校内研修を企画運営している。

不登校及び長欠児童の支援については、月1回

の生活・養護・集団づくり部において子どもたちの実態を把握し、さらに校内不登校生等支援会議では、管理職、生指部長、人権・同和教育担当、養護教諭、研究主任、学年教員、スクールカウンセラーで構成し、支援のあり方を検討している。これらは、全て職員会議において、確認し、共通認識をはかることとしている。

2. 教育課程の編成

恵我小学校・恵我南小学校

	各教科の授業時数											道徳	特別活動	総学習的な時間	人間関係学科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	国画	工作	家庭	体育						
第1学年	272		114		102	68	68		90	34	34					782
第2学年	280		155		105	70	70		90	35	35					840
第3学年	235	70	150	70		60	60		90	35	35	70 -35		35		910
第4学年	235	85	150	90		60	60		90	35	35	70 -35		35		945
第5学年	180	90	150	95		50	50	60	90	35	35	75 -35		35		945
第6学年	175	100	150	95		50	50	55	90	35	35	75 -35		35		945
計	1377	345	869	350	207	358	358	115	540	209	209	290 -140		140		4548

小学校の「人間関係学科」の授業時数は、第3学年～第6年においては、「総合的な学習の時間」のうち、年間35時間を充てている。なお、第1・2学年は、教育課程を変更せず、特活の時間内で15時間程度実施している。

松原第七中学校

	各教科の授業時数												道徳	特別活動	選択教科	総学習的な時間	人間関係学科	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語									
第1学年	140	105	105	105	45	45	90	70	105	35	35	0	65 -35		35		980	
第2学年	105	105	105	105	35	35	80	70	105	35	35	70	50 -35		35		880	
第3学年	105	85	105	80	35	35	90	85	105	35	35	140	60 -35		35		980	
計	350	295	315	290	115	115	90	175	315	105	105	210	175 -105		105		2940	

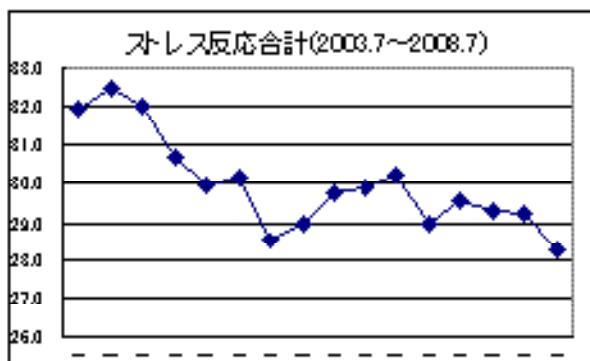
中学校の「人間関係学科」の授業時数は、「総合的な学習の時間」から特設した35時間である。

3. 子どもの実態から

1) 松原第七中学校

人間関係学科（HRS）導入後

松原七中では、2003年度から2005年度の3年間、文科省の研究開発の指定を受け、人間関係学科（HRS）の創設を行った。初年度から始めた学校生活調査を通じて、子どもたちが大きなストレスを抱え、それが子どもたちの日常生活に大きな影響を与えていたことがわかった。私たちは子どもたちがストレスについて正しく学び、理解することが、ストレスと上手につき合い、良好な人間関係をつくることができるための第一歩だと考えた。



さらに二年目は、子どもたちが自分の良さを発見できず、自信を持てずに悩んでいる姿から、自己肯定感に注目して研究を進めていった。その結果、自己肯定感を高めていく要素は、

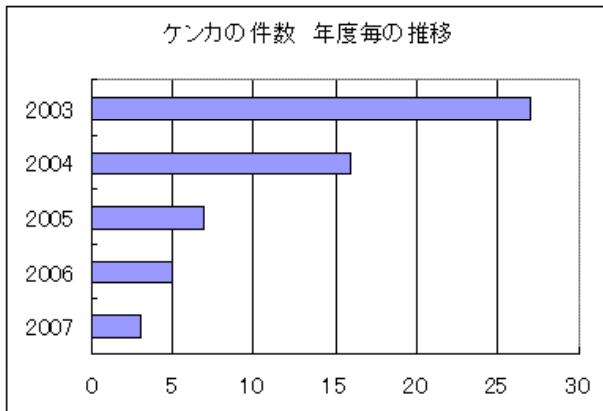
- ・ほっとできる居場所をつくる力をつける
- ・人との関係を築く力をつける
- ・自分の良さを発見できる力をつける
- ・家庭との連携をはかる

ということであった。

そして、三年目の最も大きな課題は、ストレスをマネジメントし、自己肯定感を高めていくための、人間関係学科（HRS）の完全開発（年35時間×3年分）であった。プログラムの開発にあたっては、自己肯定感だけではなく、自分と社会

とのつながりを意識していくための社会的有用感を育てることをめざしてきた。

その結果、子どもたちにおける学校生活満足度（楽しさ度）の上昇・不登校率の減少・ケンカの減少などが見られた。これは、「人間関係学科（HRS）が楽しみだ」と答えている子どもが90%近く、さらには「人間関係学科（HRS）で考えが広がった」と答えている子どもが80%にものぼっている事実からも、人間関係学科（HRS）の成果であると言える。



今回の研究開発においては、この成果をより確かなものにしていくために、校区としての研究開発に取り組み、幼小中11年間を通じて、人間関係づくりを進めることである。義務教育の最終段階としての中学校で、社会的有用感をはじめとした「社会の中で人々とかかわりをもち、社会をつくっていく力」をどう子どもたちの中につくっていくかということを研究開発の中心課題として進めている。

2003年度から今年にかけて6年間、各学期末に学校生活調査を実施している。学校や家庭での生活における子どもたち自身についてのアンケートである。その内容は、

- ・a 学校生活の楽しさ
- ・b 悩み
- ・c ストレス反応
- ・d ストレス対処
- ・e ストレッサー
- ・f 自己肯定感

に関するものである。前回の研究開発において、これら6つの領域に關かかわるアンケート結果をデータ集積し、様々な観点から分析していくことにより、子どもたちの実態を把握してきた。そして、そこから出てきた子どもたちの課題に応じた人間関係学科（HRS）のプログラムを子どもた

ちに提供し、各授業のふりかえりにおいては「ふりかえりシート」を、各学期のまとめにおいては「HRS自己評価」を実施し、子どもたちの成長と課題を確認してきたのである。本年度を研究開発6年目と位置づけ、これまで取り組んできたアンケート調査によるデータ集積・効果測定を継続発展させ、今回の研究開発の柱としていきたいと考えている。

いじめ・不登校の状況

2006年度、いじめの深刻な実態が全国的に明らかにされた。これまでの「自分よりも弱いものに対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」という定義は、いじめの被害を受けた子どもに寄り添う視点から、「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」という定義に変更された。また、「発生」件数調査から、「認知」件数の調査に変更された。本校では、これを受けて、被害を受けた子どもの立場に立って、「認知」そして「取組」を、という視点で、子どもの状況把握をより詳細につかもうと努力した。大阪府教育委員会の「いじめ防止プログラム」を参考にして、昨年10月には校内で「ほっとアンケート」を実施した。また、週1回の「不登校生等支援会議」で日常の子どもの様子から、いじめによる被害を受けていないか、交流を行っている。

「毛虫」の投げ合いの中で潰れた毛虫が体操服について「におい下さい」とはやしたてられ、悔しくて泣いた子どもがいた。鏡の前で髪の毛を触っていた姿をクラスの子から問いつめられ、教室を飛び出した子どももいた。本校では、これらの事例をいじめの事例と認識し、保護者へ学校の姿勢を話し、子どもたちへの指導・支援を行った。

「調査のための調査でなく、取組のための調査（森田洋司氏）」と指摘されるように、子どもたちの集団の病理に対して、日常生活の中で正義感、公平感を養い、対応の中で強く信頼関係を築き、そうしながら、学校の中で相談機能を整備していく取組を進めている。そして、日常の生徒指導のなかで、厳しい状況に置かれた子どもを「困った子ども」ではなく、「困っている子ども」であるという意識の転換と支援という視点で取り組もうと共通認識している。

保健室は、子どもが「しんどい」からだ・気持ちを訴えに来る最も身近な場所である。

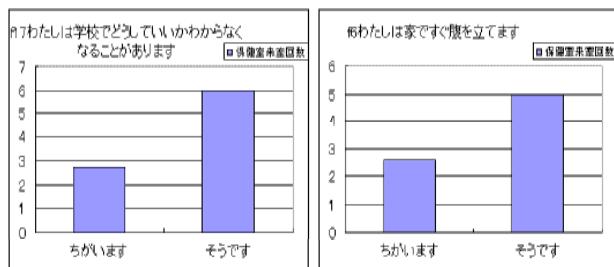
どのような意識をもつ子どもがよく来室するの

か調査した。自己肯定感を問う25項目の中で、「ちがいます」と「そうです」の2つの群による来室回数の平均値を比較した。

5項目で、「そうです」と「ちがいます」と答えた群で差が有意であった。

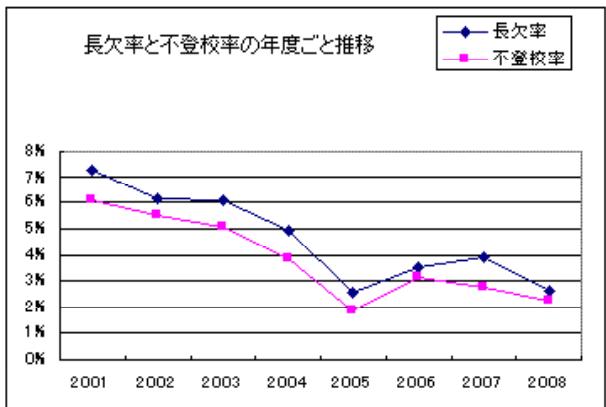
f_1 私は今の自分とはちがう人になりたいと思います
f_2 私はクラスのみんなの前では、たいへん話しにくいです
f_6 私は家すぐ腹を立てます
f_16 私は家を出たいと思うことがたびたびあります
f_17 私は学校でどうしていか分からなくなることがよくあります

上の項目で「そうです」と回答した子どもは、学校や教室で自分の居場所を見失いがちな子どもであるという実像が浮かんでくる。



いじめを受けやすい位置にある子どもを「受容」しエンパワーアーする場所として、保健室は大切な役割を持っている。

本校の長期欠席と不登校の状況は以下の図のようになる。



不登校率が6%以上であった2001年度から、2%台になった2008年度にかけては長欠率・不登校率ともに減少傾向である。「学校を休む」子どもは、依然として存在する。「不登校」だけでなく、「病気」による長期欠席する子どももわずかであるがいる。

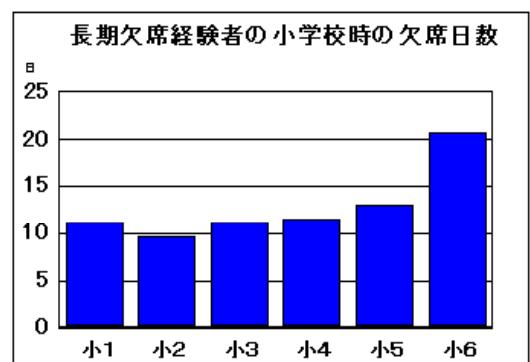
本校の調査では、欠席日数と学力（テストの成績）は、明確な相関がある。長期欠席や不登校の子どもたちが、中学校卒業後の進路選択において、「学力」が身についていないための狭められた選

択を強いられていることは、明らかである。

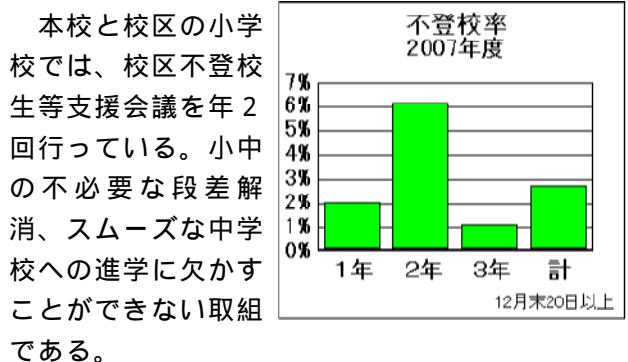
不登校に基づく、学力格差から将来の社会的な格差につながる可能性は極めて高い。不登校の未然防止と不登校からの復帰は、「格差」「差別」の再生産という循環を断ち切る重大な課題であると考えている。

中学校の3年間で、いずれかの学年で30日以上の長期欠席を経験した子どもたちは小学校のとき、平均すると10日ぐらい欠席していた。

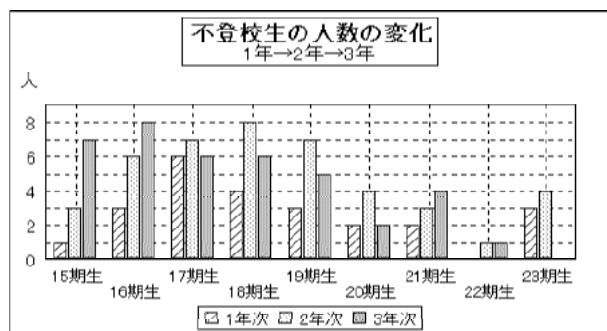
小学校の欠席日数が資料として存在する19期生から23期生（現3年生）の25名について調査すると、下の図のようになった。



小学生のときに、年間10日以上欠席する子どもは、中学校で長欠・不登校になる可能性が大きいということである。この分析をもとに、本校は校区小学校に年10日以上欠席する子どもへの取組が大切であることを提起している。



本校と校区の小学校では、校区不登校生等支援会議を年2回行っている。小中の不必要的段差解消、スムーズな中学校への進学に欠かすことのできない取組である。

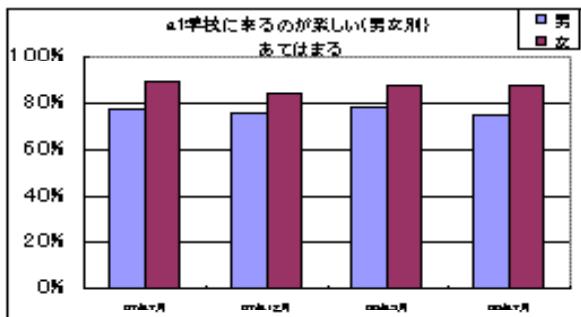


本校では、2年生で不登校率が高い。不登校経験をもつ子どもが、3年に復帰できるのは、学校としての支援が実を結んだ結果である。具体的な取組については、別項で詳述する。

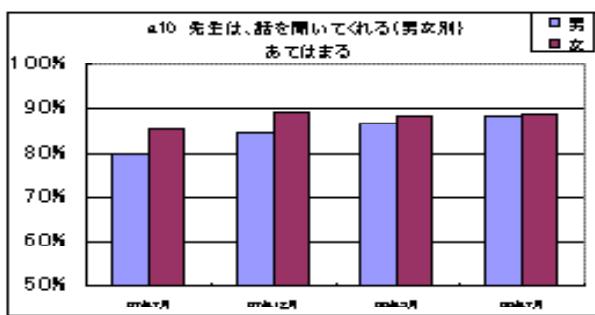
2) 恵我小学校

学校生活アンケートより

a) 学校生活楽しさ度

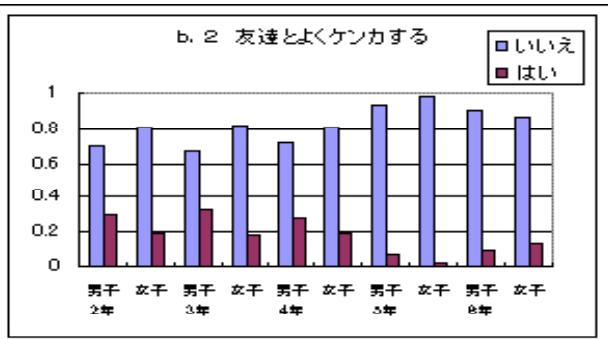


上のグラフは昨年7月から今年7月までの推移を表したものである。「a1 学校に来るのが楽しい」と感じている子どもはいずれも 80 %前後いる。「学校が楽しくない」と答えた子どもを個別に見ると、「先生にほめられたことがない」「休み時間は友達と楽しく過ごせていな」いと感じている子が多いことがわかった。教員の声かけのしかたや良好な友達関係を築くことの大切さを改めて感じた。

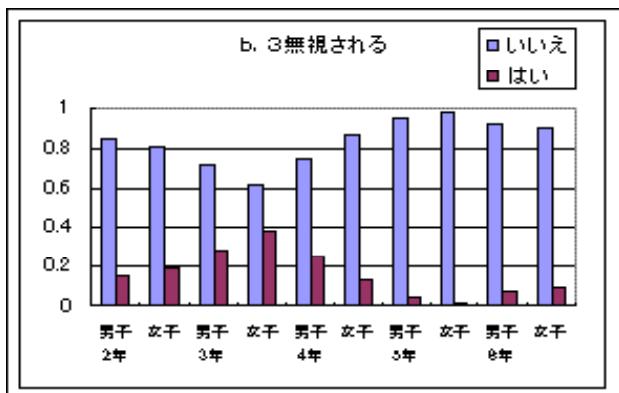


一方、「a10 先生は話を聞いてくれる」と答えた子どもは少しづつではあるが増加傾向にある。今後も「あいあいタイム」に取り組む中で、子どもとしっかり向かい合う姿勢を大切にしていきたい。

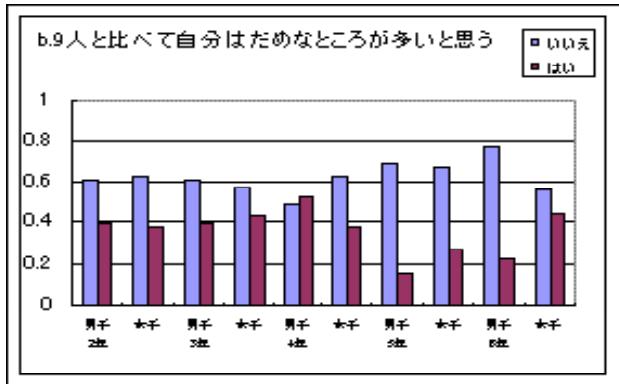
b) 悩み・ストレスサー



「b2 友達とよくケンかする」「b3 無視される」など友達関係における悩みは、高学年になるにつれて減少している。子どもたちは成長する中で、友達づきあいが上手に

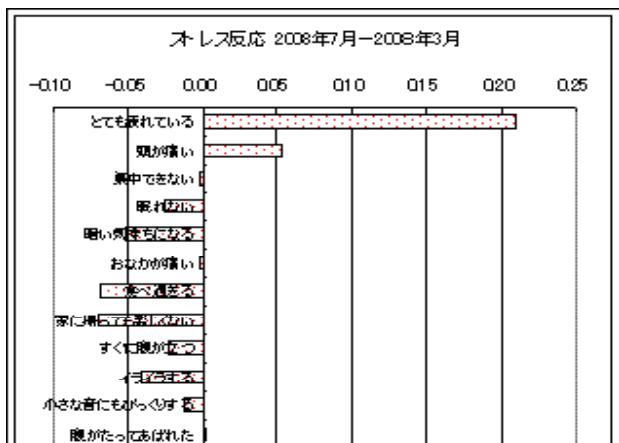


なっていると考えられる反面、特定の気の合う友達との関わりのなかで生活していることも原因ではないかと考えられる。6年女子では、「友達のことでイライラしている」と答えた子どもが 40 %おり、どの学年よりも多かった。表面は上手に付き合えるが、自分の気持ちを伝えられず、抱え込むことが多い様子が伺われる。



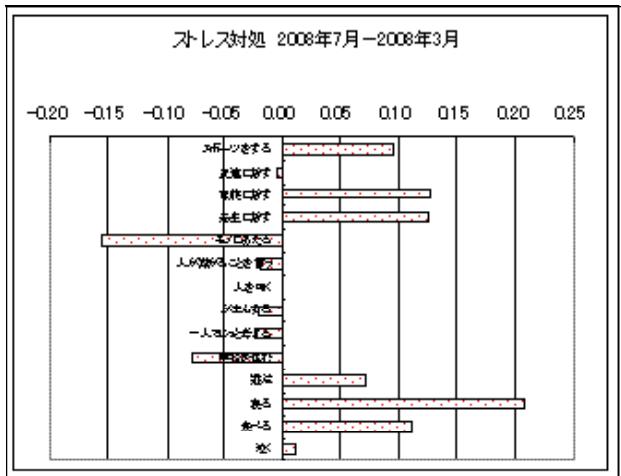
また、「b9 人と比べて自分はだめなところが多いと思う」と答えた子どもは高学年になると男女が逆転し、女子のほうが自己肯定感は低くなる傾向があることもわかった。

c) ストレス反応・ストレス対処



昨年度の3月に比べ、ストレス反応は全体的に減少しているが、「c1 とても疲れている」「c2 頭が痛い」と答えた子どもが増えている。また、ストレス対処では運動したり身近な人に話すなどの積極的対処や「d12 寝る」「d13 食べる」などの本能的対処が増加し、「d5 モノにあたる」

などの攻撃的対処や抱え込み型対処が減っていることがわかった。どの学年もコミュニケーション力につける活動を大切にしてきた成果であると言える。しかし、「友達に話す」はやや減少しているため、今後は悩みも相談しあえるより深い仲間関係の構築をすすめていくことが課題である。

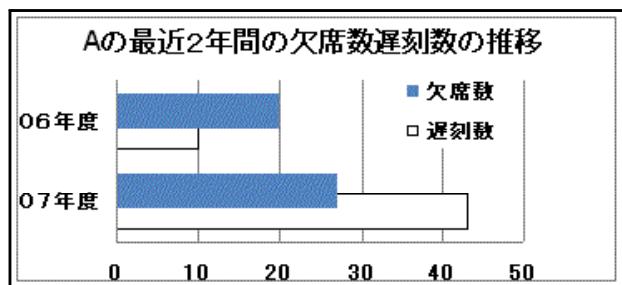


不登校児童の状況



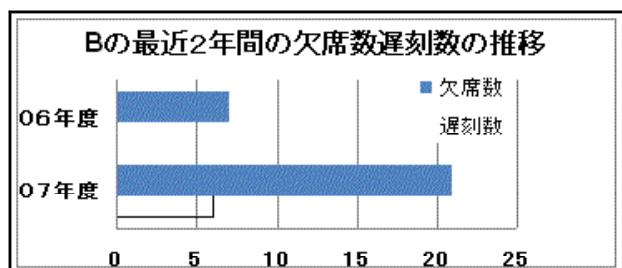
2006年度よりそれまでの30日以上欠席から欠席累積10日を自途に状況把握をおこなうことになった。入院を伴う病気を持つ子どもや、塾や受験のための欠席が高学年の一部には見られるものの、その多くは「しんどい」「　　が痛い」というような理由や一旦風邪などで休むとしばらく引きずるというような状況での休みが多い。2007年度の傾向も変わらないが、一昨年度から調査している子どもの中で、昨年度も10日を越えたものは54%もいる。しかも3年生以上については、半数以上が10日以上の欠席を2度以上経験している。10日以上欠席する子の多くは、それ以前の年度でも10日以上欠席することが多い実態が見受けられる。従って1回でも年間10日以上欠席した子どもに留意して、状況をつかむことが必要である。欠席理由の迅速な把握と当該の子どもへの対応、また校内不登校生等支援会議での追跡調査と支援の充実が考えられる。

個別の子どもの実態として特に支援を必要とする3人の子どもについて記す

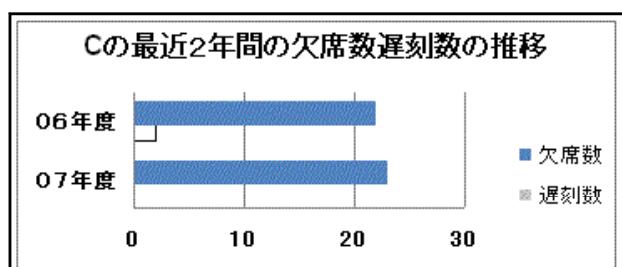


Aについては兄弟の不登校の影響もあり、2006年度より欠席が増え始めた。家庭環境も複雑であり、また、勉強がわからないという不安も大きくなってきたことから欠席や遅刻しがちになってきた。担任からの誘いかけで途中から登校する場合もあった。

Bについては、昨年度より気になる子として状況の把握をおこなっている。昨年度、学校に来るものの教室に入れずにいることがあった。Bも複雑な家庭環境のもとにある、母親のことや家庭のことが子どもながらに気になっており、そのことを受け止めつつ支援が必要である。



Cについては、欠席が多かったものの遅刻もほとんどなく、理由が不確かな子どもの一人であったが、学年の友だち集団の人間関係における被侵害があることが少しずつわかつてきた。おとなしい子どもで自分の気持ちをなかなか出すことができないだけに配慮を要する。



いじめの状況

身体的あるいは金銭的な被害を伴ういじめについては現状では確認できない。ただし、特定の子に対して仲間はずしをおこなっていたり、下校途中に相手が傷つく悪口を投げかけたりなど指導を行った事例はあった。お金がないと友だち関係を解消されることを恐れて、家のお金を持ち出しておごるなどの関係が表面化したケースもあった。

高学年では友だちのことを心配して「おかしい」と伝えてくれた子に対し「チクった」とにらんだり陰口を言うケースもあった。どちらも友だち関係の不安が背景にあり、根気よく気持ちを聞きながら取り組んでいくことが必要である。それとともに、力の強い者、偉そうに言う者に流されていく子どもの姿があり、どのように友だちとつき合っていくかが大きな課題である。

いじめ・不登校の未然防止に向けて

大切なことはいかに子どもとの関係を、そして保護者との関係をつくっていくかということと、子どもの見せる様々な姿にその子どもをとりまく関係性を見抜いていくことである。そのためにもそれぞれの立場で以下のこと取り組んでいる。

担任として

- ・当該児童が自分の気持ちをしっかり言えるよう支えていく。
- ・保護者との密接な連携を図る。
- ・小さな変化を見逃さない日々の観察をする。
- ・子どもどうしつなぐ遊びの指導をする。

学年として

- ・学年教師集団として取り組む。
- ・様々な諸課題と関連させた人権学習の取組を充実させる。
- ・あいあいタイムの授業を充実させる。

学校として

- ・早期発見、早期の取組の方針を明らかにする。
- ・子どもの実態交流会を行い、全教職員の共通認識を図る。

これらのこととを継続していきたい。

3) 恵我南小学校

学校生活アンケートより

a) 学校生活楽しさ度

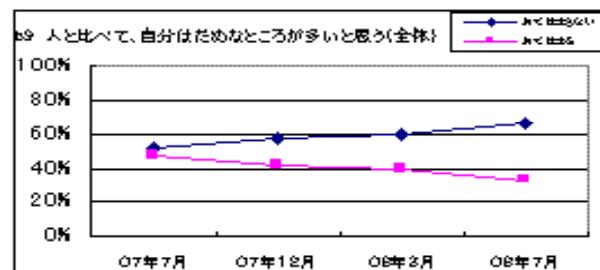
学校生活楽しさ度に関わるほぼすべての項目で、肯定的な数値の上昇がみられた。全体の85%程度の子どもが、「a1 学校に来るのが楽しい」と感じている。一年前と比較すると10%ほどの増加である。

また、子どもと教員の関係の数値では、良好な結果が表れているが、子ども間の数値はなだらかに上昇にとどまっている。学校生活のさまざまな場面で、子どもどうしつなげていくことが課題の一つであると考えられる。

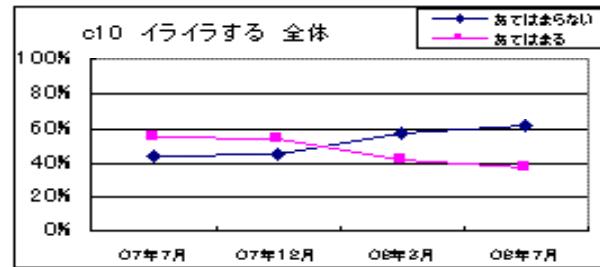
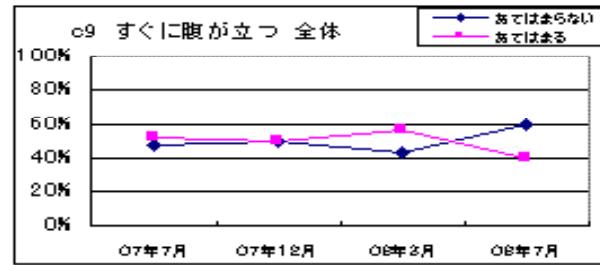
b) 悩み

「b9 人と比べて自分はだめなところが多いと思う」子どもの割合は、減少傾向にある。一年前との比較では15%もの変化がみられた。これは自己肯定感を得ている子どもが増えてきていることの表れであると考える。しかし、その割合も全体の65%程度にとどまっており、35%の子どもは自分はダメなところがあると思っている。このことから、自己肯定感の獲得へ向けた取組が必要であると考える。

他の項目は、変化が見られなかったり、わずかな増減にとどまっていたりしている。しかし、男女によっては変化のしかたも顕著に異なり、それぞれに応じた支援の工夫が必要であると考える。

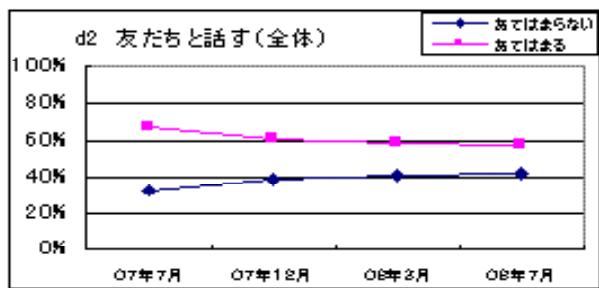
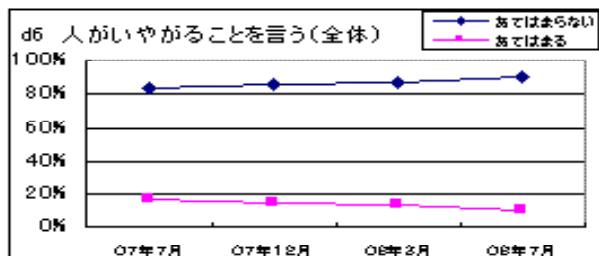


c) ストレス反応



ストレス反応は、数値としては全体的に減少傾向にある。「c2 頭が痛い」などの身体的症状は、全体的におおむね減少してきている。「c9 すぐに腹がたつ」「c10 イライラする」の二つの項目については、2008年度7月のアンケート結果では逆転をし、「あてはまらない」が20%程度上回る結果となっている。この傾向が今後ともよい方向へ進むように、怒りやイライラへの対処方法を知る機会をつくり、対処できるスキルを獲得させていきたい。

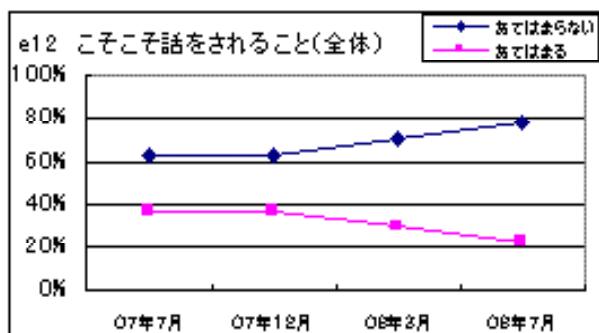
d) ストレス対処



「d6 人がいやがることを言う」などの攻撃的なストレス対処は、だんだん減少してきている。一方で「d2 友だちに話す」などの積極的なストレス対処をとる子どもたちの率も減少している。

ストレスとはどういったものなのか、どのようなときにストレスを感じるのか、ストレスを感じたときにどのように対処していくべきなのかについては、高学年を中心に、「あいあいタイム」を取り入れていく必要があると考える。同時に、さまざまなことを話せる人間関係をつくっていくことも大切にする。

e) ストレッサー



友だちや教員との関わりでイライラすることは、全体的に漸減してきている。「e12 ここそこ話をされる」という項目では、特に良好な推移が見られる。

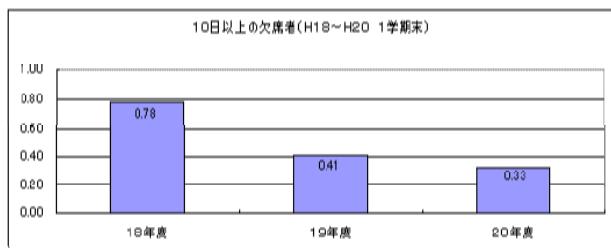
しかし、多くの項目で 20 %前後の子どもはストレスを感じているという結果が出ていることを受けとめ、子ども自身が、なぜイライラしているのかに気づいたり、それにどのように対処していくべきいいのかを知っておく必要がある。

不登校生等の現状

恵我南小では 2006 年度以降、前年度の累積欠席日数が 10 日以上になる子どもの実態把握に努めている。ここ数年は、年間 30 日を超える長期欠席・不登校児童がいない状態が続いているが、昨年度（2007 年度）は、年間欠席日数が 10 日以上の子どもが 9 名、30 日を超える子どもが 2 名いた。今年度は、その 2 名を含む年間欠席日数が 10 日以上の子ども（11 名）について、全職員共通の理解のもとに実態を把握し情報収集を継続して行っている。また不登校未然防止の観点から、遅刻の状況にも着目し欠席の有無に関係なく、遅刻が多い子どもにも注意を向け、その実態把握と情報収集に努めている。前年度に 10 日以上の欠席がなくても、今年度当初に気になる状況にある子どもについては同様に毎月の欠席・遅刻等の状況の把握を行っている。

今年度より、昨年度 10 日以上欠席した子どもや今年度に入って欠席が増えている子どもについて、生活状況や友だち関係を含めた支援のあり方を検討していくために子どもごとの個別シートを作成し、月に 1 回の支援会議において情報を共有し支援の取組や成果などについて確認をしている。昨年度 30 日以上欠席した 2 名の子どもの内、1 名は遅刻数が多いものの、2 名とも 1 学期末では 2 日以内の欠席数となっている。また昨年度 10 日以上欠席した子ども 9 名の内、2 名は 1 学期の欠席は 0 で、4 名が 2 日以内、3 名が 3 日以内の欠席となっている。

（下記のグラフは 1 学期末欠席日数 10 日以上の児童数の 3 年間の推移である）



しかし、今年度になってから、けがや体調不良が原因で、すでに 10 日以上欠席している子どもや、欠席数は多くないものの遅刻数が目立って多くなってきてている子どももいる。今後も子どもたちを取り巻く状況を見極め、個々の子どもたちの課題を把握し支援していくかなければならない。

いじめの現状

恵我南小の子どもたちは遊びが好きであり、素朴で純粋な子が多く、「子どもらしい子ども」が

多い。一方で自分に自信がなく、仲間の目を気にしたり、仲間の中に自分の居場所が確保されていないことにより、仲間はずしや、誰かを陥れることでつながる関係も存在している。

事例としては、気に入らない子を棒でたたいたりというように直接的な表し方をする子もある。また、下駄箱においてある靴の中に砂を入れたり、無視をするなど、陰湿な出し方をする子もいる。さらに、ひとりの子どもに対して命令して何かをさせ、身体的に苦痛をあたえるということもあった。また、命令するもの、周りではやし立てるもの、黙っているものと、まさにいじめの構造をかいだ見ることもできる。

いずれにしても、多くの子どもたちが健全な関係を築いている一方で、いじめが存在することを見逃すことはできない。

4. 人間関係学科の取組

1) 松原七中校区（取組の概括）

目標 めざす子ども像

人の思いを受けとめ、自分の思いを表現できる子ども

自分を見つめ、自分で考えようとする子ども

（11年間で獲得させたいターゲットスキル）

	幼稚園	低学年	中学校	高学年	中学校
自己信頼	□	○	○	○	○
自己管理力	□	○	○	○	○
感情対処	□	○	○	○	○
コミュニケーション力	□	○	○	○	○
対人関係	□	○	○	○	○
ストレス対処	□	○	○	○	○
ピア・プレッシャーへの対抗	□		○	○	○
時間管理	□		△	○	○
境界設定	□		△	○	○
決断と問題解決	□		△	○	○
計画性	□			○	○
情報活用力	□			○	○

人を信じ、人とつながろうとする子ども

- ・「自分の長所や短所を正しく判断し、自分のことを受け容れることができる」（自己信頼）
- ・「自分の生活をコントロールできる」
(自己管理力)

- ・「怒りや悲しみなどの感情をコントロールできる」
(感情対処)
- ・「いろいろな人と適切に対話できるコミュニケーション力をもつ」(コミュニケーション力)
- ・「まわりの人と適切な関係を築くことができる」
(対人関係)
- ・「ストレスに対して適切に対処できる」
(ストレス対処)
- ・「仲間からの圧力に対して、自分の考えを伝え、行動することができる」
(ピア・プレッシャーへの対抗)
- ・「自分自身の時間を有効に活用できる」
(時間管理)
- ・「自分と他人の間に適切な距離を置き、自分らしさを表し、相手を尊重できる」(境界設定)
- ・「身のまわりに起きたことや、自分自身の課題に対して、自らが考え、取り組むことができる」
(決断と問題解決)
- ・先を見通し、計画的に課題をこなせる(計画性)
- ・まわりからの情報を積極的に取り入れ、物事に活用する
(情報活用力)

校区の取組

2006年度、大阪府の「子どもの未来ハートフル推進事業」の指定を受け、校区人研で、松原七中校区の子どもたちの実態や課題を話し合い、子どもたちの現状や課題をふまえ、松原七中校区として『めざす子ども像』を設定した。その子ども像を実現していくための「人間関係づくりのための授業」づくりをめざして、「校区あいあいプロジェクト」を発足させた。その中で、左記の表のように、幼・小・中11年間で獲得させたい12項目のターゲットスキルを設定し、「あいプロジェクトのスキル」として校区のターゲットスキルとしたのである。2007年度、武庫川女子大学大学院教授・西井克泰氏、親和女子大学准教授、新保真紀子氏、マザー・アース・エデュケーション主宰・松木正氏を招聘した校区合同研修を実施し、幼・小・中の間関係学科（あいあいタイム・HRS）の授業づくりを本格的に始動させた。また、地域への発信という観点で、七中校区地域教育協議会予算総会で幼小中教員合同の教師劇を披露した。

本年度（2008年度）は、幼・小・中の連携をさらに強めていく取組を進めてきた。

ひとつは、授業づくりにおける学校間連携の強化である。恵我小・恵我南小の合同協議の場を設けたり、松原七中も含めて授業交流を深めてきた。

本年度の春の校区人研では、昨年度の秋の校区人研よりも公開クラスを増やすとともに、研究協議も強化し、現時点における校区の課題を確認してきた。武庫川女子大学大学院教授・西井克泰氏に継続的に関わっていただき、恵我小、恵我南小学校での研究協議や本年度春の校区人研において貴重なご指摘や方向性の示唆をいただいた。2年目をむかえた「あいあいタイム」、6年目をむかえた「H R S」の恵我幼も含めた11年間での発達段階に応じた授業づくりという段階に到達していることを確認した。



もうひとつは、本年度の校区ワーキングの設置である。「あいあいプロジェクト」を発展させ、「校区プログラム・ワーキング」「校区効果測定ワーキング」「校区実態把握ワーキング（報告冊子づくりも担当）」を発足させた。校内ワーキングの成果を代表者が持ち寄り、校区としての方向性を提示することとしている。不登校生等の支援においては、各校の不登校生等支援の代表者による校区不登校生等支援担当者会議を月1回実施し、具体的支援策の交流を行っている。校区での不登校生等支援をさらに進め、校区で一貫した不登校生等支援がめざしている。

これらの課題を推し進めていくための校区合同研修にも引き続き取り組んできた。弁護士・峯本耕治氏からは「不登校生等支援に関わる事例の数々とアセスメント（見立て）の必要性」を、マザー・アース・エデュケーション主宰・松木正氏からは、『ワークショップの「こころ」 - 「寄り添うこと』を、ひとまちファシリテーション工房代表・ちゃんせいこ氏からは、「ファシリテーションが産み出すエンパワメント」を学んできた。

さらに、地域への発信として、本年度の松原七中校区地域教育協議会の予算総会では、昨年度の幼・小・中の教師劇から地域の人たちとの合同劇を取り組むまでになった。

2008春の校区人研 実施公開授業



恵我幼4・5歳児
「ペアで遊ぶの楽しいね」

恵我南小2年
「気づいたよ 友だちの
ステキなところ」



恵我小3年
「友だちキャッチ」



恵我南小5年
「いろいろコミュニケーション
・ピラミッド」



恵我小6年
「みんなで一つの輪になろう」



松原七中1年
「サバイバルゲーム」

松原七中2年
「もめ事だって 解決できるさ」



2) 松原第七中学校

目標

松原七中では、2003年度から2005年度までの研究開発において、世界保健機構(WHO)のライフスキルを基礎にして人間関係学科(HRS)のプログラム開発を行ってきた。一つひとつのワークにターゲットスキル定め、明確に獲得目標を設定した。そして複数の授業からなるパッケージ方式をとり、子どもの状況や実態に応じて臨機応変にパッケージの入れ替えで対応できるようにした。

ストレス対処から自己肯定感の育成へと進んでいった流れを引き継ぎ、今回の研究開発においては、人間関係学科(HRS)を中心とした教育活動を通じて、子どもたちに社会的有用感をいかに身につけさせていくかということが課題となっている。校内の生徒会活動、地域のボランティア活動、保育所・幼稚園・小学校の子どもたちとのブリッジ等、自己肯定感の獲得から社会的有用感の獲得へつなぐことができるプログラム開発が、子どもたちの成長から要求されているといえる。

今回の研究開発の目標設定において、これまでのWHOの10個のライフスキルを、更に『高次の、様々な文脈を通じて通用しうる「ジェネリックスキル』(2006年5月大阪府ハートフル推進事業連絡協議会における大阪樟蔭女子大学学長、森田洋司氏の講演より)として設定し、これまでのプログラムの再編成、ターゲットスキルの読替作業を進めていく段階に入っている。本年度は、ターゲットスキルの高次化への移行期間としてとらえ、従来設定してきたWHOのライフスキルを基礎としたプログラムをもとに、ジェネリックスキルを基礎とした授業をどう関係づけて取り入れていくかということを、その理解とともに進めてきた。次の表は、WHOの10個のライフスキルとジェネリックスキルを関係づけたものである。

WHO ライフスキル	ジェネリックスキル
自己認識 共感性	自己信頼 自己管理力
対人関係スキル	対人関係 境界設定 ピア・プレッシャーへの対抗
効果的コミュニケーション	コミュニケーション力
意志決定 問題解決力	決断と問題解決
ストレスへの対処	ストレス対処
情動への対処	感情対処

創造的思考	
批判的思考	
	時間管理
	計画性
	情報活用力

各学年の実施プログラム(2007~2008)

a) 現1年生(25期生)

1	人間関係学科(HRS)ってなあに?
『中学校入学!さあ新しい自分に出会おう』	
2	コミュニケーション力
3	『わたしのコマーシャル』 ~仲間に新しい自分を表現しよう
4	
5	コミュニケーション力 『わたしのじゃがいも』
『新しい仲間との関係をつくろう』	
6	対人関係・決断と問題解決 『さいころトーキング』
7	コミュニケーション力 『流れ星』
8	対人関係 『こんな時 どうする?』
9	コミュニケーション力・対人関係 『クラスみんなで なんでもキャッチ』
10	決断と問題解決 『アニメの村』
『仲間との関係について考えよう!』	
11	感情対処 『サバイバルゲーム』
12	学校生活調査+HRS自己評価表



b)現2年生(24期生)

一年生 一学期	1	人間関係学科(HRS)ってなあに?
	『中学校入学!さあ新しい自分に出会おう』	
	2	コミュニケーション力
	3	『わたしのコマーシャル』 ~仲間に新しい自分を表現しよう
	4	
	5	コミュニケーション力 『わたしのじゃがいも』
	『新しい仲間との関係をつくろう』	
	6	対人関係・決断と問題解決 『さいころトーキング』
	7	対人関係 ロールプレイ『こんな時 どうする?』
	8	自己信頼 『こんな時 どうした?』
	9	コミュニケーション力・対人関係 『クラスみんなで なんでもキャッチ』
	10	決断と問題解決 『アニメの村』
	11	コミュニケーション力『流れ星』
	『仲間との関係について考えよう!』	
	12	コミュニケーション力 『伝えてねゲーム』
	13	学校生活調査+HRS自己評価表
一年生 二学期	14	決断と問題解決『新聞ジグソーワーク』
	15	対人関係・決断と問題解決 『すごろくトーキング』
	16	対人関係・境界設定 『ふわふわ&とげとげ』
	17	対人関係・境界設定 『伝言ゲーム「それってほんま?」』
	『ストレスに気づき、 ストレスをマネジメントしよう』	
	18	ストレス対処『ストレス・チェック』
	19	ストレス対処『ストレス・ゲーム』
	20	ストレス対処『ストレスのメカニズム』
	21	ストレス対処 『ストレスをマネジメントしよう!』
	22	ストレス対処 『アサーションで関係ばっちり1』
	23	ストレス対処 『アサーションで関係ばっちり2』
	27	学校生活調査+HRS自己評価表
	『豊かな発想で問題解決を!』	
一年生	28	対人関係・自己信頼 『ルーレットトーキング』
	29	対人関係・感情対処・創造的思考 『サバイバルゲーム』

三年生 一学期	30	対人関係・感情対処 『スパイダーリフト』
	31	決断と問題解決 『松原第七団地を救え!1』
	32	決断と問題解決 『松原第七団地を救え!2』
	33	学校生活調査+HRS自己評価表
	『人間関係学科(HRS)ってなあに?』	
	『さあ新学年!新しい自分に出会おう』	
	2	コミュニケーション力 『わたしのコマーシャル』 ~仲間に新しい自分を表現しよう
	3	
	4	
	『コミュニケーション法を学ぼう』	
	5	自己信頼 ソーシャル・スキル・アンケート
	6	対人関係 『すごろくトーキング』
	7	コミュニケーション力 『On the desk』
	8	コミュニケーション力 『伝達ゲーム』
	『人とのつながりを深め、物事を解決しよう』	
	9	ストレス対処『「アイウエオ」で 気持ちを伝えることができる』
	10	ストレス対処・対人関係 『スパイダーリフト』
	11	対人関係・感情対処・決断と問題解決 ストレス対処 『「もめごと」だって解決できるさ』
	12	学校生活調査+HRS自己評価表



c) 3年生(23期生)

二年生 一学期	1	人間関係学科(HRS)ってなあに? 『さあ新学年!新しい自分に出会おう』	
	2	コミュニケーション力 『わたしのコマーシャル』	
	3	~仲間に新しい自分を表現しよう	
	4	『コミュニケーション法を学ぼう』	
	5 自己信頼 ソーシャル・スキル・アンケート		
	6	コミュニケーション力 『On the desk』	
	7	コミュニケーション力 グループワーク『伝達ゲーム』	
	8 人とのつながりを深め、物事を解決しよう ストレス対処『「アイウエオ」で気持ちを伝えることができる』		
	9	ストレス対処・対人関係 『スパイダーリフト』	
	10	対人関係・決断と問題解決 ストレス対処 『「もめごと」だって解決できるさ』	
	11	対人関係・自己信頼 『サイコロ・ドゥーイング』	
	12	学校生活調査+HRS自己評価表	
二年生 二学期	『職場体験に必要なスキルを身につけよう』		
	13	自己信頼 『サイコロ・トーキング』	
	14	決断と問題解決 『気球に乗って世界旅行!』	
	15	コミュニケーション力 『ボディ・ランゲージ・ゲーム』	
	16	コミュニケーション力 『見るだけテレビ・聞くだけテレビ』	
	17	感情対処 『自分の感情をコントロールしよう』	
	18	職場体験シミュレーション学習	
	19	『仲間との関係、自分のありかたを見つめ直そう!』	
	20	コミュニケーション力 『フィーリング・フレンドシップ5×5』	
	21	決断と問題解決 コミュニケーション力 『財宝を探せ!』	
二年生 三学期	22	学校生活調査+HRS自己評価表	
	『スキー合宿クラスミーティング直前 ストレスに負けない方法を学ぼう』		
	24	対人関係・自己信頼 『すみれくトーキング』	
	25	自己信頼・対人関係 『クラスミーティングに向けて』	
	26	自己信頼・対人関係 『クラスミーティング - 先輩に聞く』	
	27	自己信頼・コミュニケーション力 『クラスよつながれ! スパイダーネット!』	
	28	創造的思考 『クラスのいいところインタビュー』	
	『今までの自分の成長を確認しよう』		

三年生 一学期	29	創造的思考・批判的思考 『ディベートゲーム』	
	30	創造的思考 『わたしの何が変わったかな?』	
	31	感情対処・創造的思考 『がんばったこと・うれしかったこと』	
	32	学校生活調査+HRS自己評価表	
	1	人間関係学科(HRS)ってなあに?	
	『中学校最後の年のはじまり 新たな自分に出会おう』		
	2	コミュニケーション力 『わたしのコマーシャル』	
	3	~仲間に新しい自分を表現しよう	
	4	『修学旅行直前 仲間と分かち合う大切さを学ぼう』	
	5	自己信頼 ソーシャル・スキル・アンケート	
	6	対人関係・決断と問題解決 『名画鑑賞』	
	7	対人関係・決断と問題解決 『こんなときどうする?』	
『修学旅行を終えて 仲間と力を会わせる方法を学ぼう』			
8 境界設定『線』			
『職業調査にむけて 社会に通用するスキルを身につけよう』			
9 対人関係・決断と問題解決 『職業調査 アポの取り方』			
10 学校生活調査+HRS自己評価表			



各学年の人間関係学科（H R S）の流れ

1年	学校行事・生徒会行事	学年のとりくみ	人間関係学科の取組
4月	始業式 オリエンテーション 家庭訪問	前期クラス体制づくり 人間関係学科（通年） 前期全体総合開始	【1】自己信頼（新しい自分に気づく） (自分の長所・短所を認識する) 『新しい自分に出会おう』
5月	授業参観 中間テスト	校外学習	【2】コミュニケーション力 (言語的・非言語的コミュニケーションを学ぶ) (人の話をよく聞く) 対人関係（共同作業を通して協力しあう） 『新しい仲間との関係をつくろう』
6月		「いのち」学習	【3】対人関係・境界設定（仲間との適切な距離感を考える） 『仲間との関係について考えよう』
7月	期末テスト		
8月	生徒会主催校区子ども交流会「涼もう会」		
9月	体育大会		【4】自己信頼（人に対して寛大になる）『仲間と協力しよう』
10月	生徒会後期役員選挙 中間テスト	「しんろ」学習 後期クラス体制づくり 後期全体総合開始 校外学習	【5】ストレス対処 (ストレスのメカニズムを知る) (ストレスをコントロールする方法を知る) (自分が変えることのできない状況に対処する) 『ストレスに気づき、ストレスをマネジメントしよう』
11月	校区国際文化フェスタ		
12月	期末テスト		
1月	生徒会主催校区子ども交流会「HOT × ほっと会」	「ちがい」発見学習	【6】対人関係（仲間関係の深まりと適切な距離感のバランスを考える） 決断と問題解決（違った意見を受けとめよりよい方向をさぐる） 情報活用力（収集した情報を有効に生かす） 『豊かな発想で問題解決を』
2月			
3月	学年末テスト 卒業式		

2年	学校行事・生徒会行事	学年のとりくみ	人間関係学科の取組
4月	始業式 オリエンテーション 家庭訪問	前期クラス体制づくり 人間関係学科（通年） 前期選択・全体総合開始	【1】自己信頼（新しい自分に気づく） (自分の長所・短所を認識する) 『新しい自分に出会おう』
5月	授業参観 中間テスト	校外学習	【2】コミュニケーション力 (人の話をよく聞く、アサーティブネス) 『コミュニケーション法を学ぼう』
6月		「いのち」学習	【3】ストレス対処（アサーティブネス） (困難な状況を扱うための対処法を学ぶ) 対人関係（共同作業を通して協力しあう） 決断と問題解決（集団的に問題を解決する方法に気づく） 『人とのつながりを深め、物事を解決しよう』
7月	期末テスト		
8月	生徒会主催校区子ども交流会「涼もう会」		
9月	体育大会		【4】決断と問題解決 (自分の意志で、自分に適した選択をする)
10月	生徒会後期役員選挙 中間テスト	「しんろ」学習 後期クラス体制づくり 後期選択・全体総合開始	コミュニケーション力 (言語的・非言語的コミュニケーション) (人の話をよく聞く)(内気を克服する) ストレス対処（プレッシャーの下で落ち着きを保つ） 感情対処（不安・喜怒哀楽の感情をコントロールする）
11月	校区国際文化フェスタ		

		職場体験学習	『職場体験に必要なスキルを身につけよう』
12月	期末テスト		【5】自己信頼(人に対して寛大になり、他人をケアする) 対人関係(対人関係をつくったり、終了したりする) 『仲間との関係、自分のありかたを見つめ直そう』
1月	生徒会主催校区子ども交流会「HOT ×ほっと会」	スキーハイ宿	【6】コミュニケーション力 (内気の克服、人の話をよく聞く) ストレス対処(プレッシャーの下で落ち着きを保つ) 『スキーハイ宿クラスミーティング直前』 ストレスに負けない方法を学ぼう』
2月		「ちがい」学習	【7】創造的思考(ポジティブな思考を手に入れる) (豊かな発想で自分を表現する) 『今までの自分の成長を確認しよう』
3月	学年末テスト 卒業式		

3年	学校行事・生徒会行事	学年のとりくみ	人間関係学科の取組
4月	始業式 オリエンテーション 家庭訪問	前期クラス体制づくり 人間関係学科(通年) 前期選択・全体総合開始	【1】自己認識(新しい自分に気づく) (自分の長所・短所を認識する) 『新しい自分に出会おう』
5月	授業参観 中間テスト	「しんろ」学習 修学旅行	【2】決断と問題解決 (選ぶことの意味を理解し、積極的に意志決定する) 対人関係(共同作業を通して協力しあう) 決断と問題解決(集団的に問題を解決する方法に気づく) 『修学旅行直前、仲間と分かち合う大切さを学ぼう』 『修学旅行を終えて、仲間と力を合わせる方法を学ぼう』
6月		「いのち」学習	【3】対人関係(新しい人間関係を築く方法を学ぶ) コミュニケーション(内気を克服する)(交渉) 境界設定(人間同士の適切な距離を知る・相手を尊重する) ストレス対処(困難な状況を扱うための対処法を学ぶ) 『職業調査にむけて 社会に通用するスキルを身につけよう』
7月	期末テスト	職業調査	
8月	生徒会主催校区子ども交流会「涼もう会」		
9月	体育大会	職業調査	【4】対人関係(信頼して共同作業を進める) 『仲間と力を合わせて共同作業を進めよう』
10月	生徒会後期役員選挙 中間テスト	「しんろ」学習 後期クラス体制づくり 後期選択・全体総合開始	【5】自己信頼(友だちをつくる) 対人関係(適切な対人行動のための限界を知る) コミュニケーション力(アーティグネス・内気を克服する) ストレス対処(自分が変えることのできない状況に対処する) 『ステップアップ・マナー』
11月	校区国際文化フェスタ		【6】創造的思考(ポジティブな思考を手に入れる) 決断と問題解決(現実的な目標を立て、積極的に意志決定する) 批判的思考(不平等や不公正さ、偏見を認識する) 『進路決定にむけて 積極的な考え方を手に入れよう』
12月	期末テスト		
1月	生徒会主催校区子ども交流会「HOT ×ほっと会」 学年末テスト	「しんろ」学習	【7】自己信頼(人に対して寛大になり、他人をケアする) ストレス対処(プレッシャーの下で落ち着きを保つ) 創造的思考(豊かな発想で自分を表現する) 『卒業を前に自分の成長を自覚し、仲間との関係をふりかえろう』
2月		未来にむけて 卒業にむけて	
3月	卒業式		

3) 恵我小学校・恵我南小学校

あいあいタイムの取組

小学校では、松原七中の取組に学びながら、「あいあいタイム」のプログラム開発を行ってきた。中学校同様、子どもの状況や実態から出発し、一つひとつのワークにターゲットスキルを定め、複数のワークからなるパッケージ方式をとっている。

a) 4つの「あい」

あいあいタイムの「あい」は、

[1]人を愛する（大切にする）の「愛」

[2]自分を大切にする「工」

[3]相手（周りの人）を大切にする「相」

[4]助け合い・支え合いの「合い」

という4つの「あい」と位置づけ、あいあいタイムの授業の始めに、子どもたちと確認してのち授業を始めている。

b) ソーシャルスキルトレーニング

小学校では、主に低学年を中心に、対人関係・コミュニケーションスキルをターゲットスキルとした、対人関係スキルのワークを系統立てて実施する方向で、取組を進めている。その内容は下記の通りである。

ソーシャルスキルトレーニング（小学校）

低学年	あいさつ・自己紹介 相手の話を聞く 仲間の誘い方、入り方
中学年	あいさつ・自己紹介 温かい言葉かけ 気持ちを分かった働きかけ
高学年	あいさつ・自己紹介 優しい頼み方、断り方

c) 自己肯定感の育成

小学校でも、中学校同様、自己肯定感の育成が、大きな課題となってきた。自己肯定感の育成には、自分を好きになる、自分に自信を持つとともに、まわりの人たちに認めてもらう、まわりの人たちを好きになることが重要である。そこで、全学年が特にクラス替えのある1学期に、自分や友だちのいいところ探しを中心としたワークに取り組んでいる。

d) ストレスマネジメント

小学校でも、様々なストレスを感じ、それをう

まく対処できない子がいることから、特に中学年以上で感情対処・ストレス対処の授業の必要性が出てきている。そこで、下記のような流れで系統立てて取り組んでいるところである。

3年	感情に気づく イライラのコントロール
4年	イライラのもとを知る 気持ちを落ち着かせる方法を知る
5年	ストレスとは何かを知る ストレスの対処法を知る
6年	ストレスの構造とその流れを理解する ストレスの対処法を知る

e) 気づきを大切にしたグループワーク

高学年になると、時間管理、決断と問題解決、計画性、情報活用力などのターゲットスキルをねらいとした授業にも、取り組んでいる。その際、小グループで、一体感・達成感を持たせながら、子どもたちの気づきを大切する。また、それをして出し合う中で、ねらいを共有できることを大切にするなど、ほぼ中学校に近い形で授業を行っている。

f) シェアリングを大切に

特にこの間論議されてきたのは、子どもたちのふり返りをどうシェアリングさせるかということである。ひとつは、ふり返りをワーク実施後できるだけ早いうちに写真も含めて掲示物にして、教室に貼るようにしている。それだけでなく、より深い気づきを導くように、中間シェアリングを設けたり、その場の意見を少し出させてから、ふり返りシートに書かせたり、全員発言をめざしたり、状況に応じて様々な方法に取り組んでいる。

g) 楽しいと実感できるワークに

「あいあいタイムは楽しくて何か発見がある」と子どもたちに感じさせたい。のために、様々な知恵を絞っている。教員の登場の仕方、興味を引く場の設定、教材教具等…。そして、教員も一緒に楽しんで取り組むことを大切にしている。

これまでの「あいあいタイム」の流れ

2007年度「あいあいタイム」の流れ(1学期)

恵我小		恵我南小	
ともだちのことをしろう!!		いっしょにあそぼ!	
1年	1 h あなたとわたしはぴったんこ!	対人関係	1 h み~んなあったかいね
	2 h ひらがなびんご!		2 h なべなべ大作戦!!
	3 h いっしょにあそぼう		3 h すきなもの、おしえて フルーツバスケットいすとりゲーム
	話し上手、聞き上手になろう		友だちっていいな
2年	1 h 友だちの声をよく聞こう 「牧場の動物たち」	コミュニケーション力	1 h み~んな、あったかいん や
	2 h 友だちにはっきりと話そう 「オオカミがきた!!」	コミュニケーション力	2 h こんなときってなんて言 う?
	3 h 友だちに伝わる声で話そう、 聞こう!「おおらし」	コミュニケーション力 ・共感性	
気持ちを分かろう		心をあわせて挑戦だ!	
3年	1 h しっかり見て!どこが違うの	対人関係	1 h みんな兄弟 3年1組
	2 h 気持ち言葉を見つけろ!	対人関係・共感性	2 h 心と手をつないで
	3 h カードでドン!	コミュニケーション力	3 h 力をあわせてもとに戻せ
友だちと協力してがんばりきろう!		自分を知ろう、友だちを知ろう	
4年	1 h かくれているのはだあれ	対人関係	1 h 手のひらいっぱいメッセージ 「友だちをふやそう」アンケート
	2 h あっちはどっち?手足はどこ?	対人関係・共感性	2 h 「それは、どんなとき?」
	3 h 力を合わせて上手につめ てね!	対人関係・共感性	3 h 自己紹介・PRカード・ 発表
			4 h 「友だち紹介」 インタビュー・練習・交流
あたたかい言葉かけにチャレンジ!		自分たちの班づくり	
5年	1 h ふわふわ言葉とチクチク 言葉	対人関係	1 h サイコロトーク
	2 h がんばった友達に対して 困っている友達に対して	コミュニケーション力	2 h いいところさがし
	3 h 助けてくれた友達に対して こんなときどうする?	コミュニケーション力	3 h 新聞ジグソー
			林間成功大作戦
みんなで協力!一つのわになろう!		友だちのことを見つめよう	
6年	1 h パス&キャッチ	対人関係	1 h すごろくトーキング
	2 h 新聞ビリビリ	対人関係	2 h どの がいっぱい
	3 h 文字を通して言葉(文章) をつくろう	対人関係	3 h トラブルアップ
			4 h 自分の友達への関わり方 を見つけよう

2007年度「あいあいタイム」の流れ(2学期)

恵我小		恵我南小	
1年	ともだちとなかよくなろう		みんなであそぼ！
	1h あいさつリレー	対人関係	1h なかまあつまれ
	2h こんなときってなんていう？	コミュニケーション力	2h ことばのジグソーパズル
2年	いっしょにあそぼう～進んで 友だちを誘って一緒に楽しもう		いいとこいっぽい見いつけた
	1h 二人組ごちゃまぜ大あら しをしよう	コミュニケーション力 ・共感性	1h あいあいキャッチボール
3年	2h いっしょにあそぼう	対人関係	2h I・相見いつけた
	3h なかまにいれて	対人関係	3h みんなでわくぐり
	4h 楽しく遊ぼう	コミュニケーション力	4h なかまよしあく手
	気持ちを伝え合おう		イライラ解消大作戦
4年	1h 気持ち！すなおに	感情対処	1h いろんな気持ちを見つけよう
	2h 怒りを知ろう・怒りも大事な気持ち	感情対処	2h イライラを知ろう
	3h 気持ちコントロール 怒りの対処法	感情対処・対人関係	3h イライラのコントロール
	4h いやといつていいんだよ！	コミュニケーション力	4h なかまになろう
言いたいことを伝えよう		友達とのつながり方を見つめよう	
5年	1h 友達の名前で言葉探し 友達にがんばって声をかけよう	コミュニケーション力	1h ごめんねbingo
	2h 私の仲間はどこにいるの 友達にがんばって声をかけよう	コミュニケーション力	2h ありがとうbingo
	3h お話つなげね～友達の 伝えたいことをしっかり聞こう	コミュニケーション力	3h 約束アンケート
	4h こんな時にどんな気持ち 自分の気持ちを伝えよう	コミュニケーション力	4h 友だちとの約束
わたし発見！友だち発見！		ふれあいあい・お話しあいあい・信じあいあい	
6年	1h ご注文はどっち？	自己信頼・決断と 問題解決	冒険あいあい
	2h もしも だったら？	自己信頼・コミュニケーショ	ン力・情報活用力
	3h わたしのミカタ	自己信頼・コミュニケーシ	ン力・情報活用力
	4h 自己PR大作戦！	自己信頼・コミュニケ	ン力
相手の心を受け止め、お互いに分かり合うために		自分をふり返り、伝え方を工夫しよう！	
6年	1h このボールどう受けとる 気持ちの聞き方	対人関係	1h イライラに気づこう
	2h うまく伝えられるかな？	コミュニケーション力	2h ストレスの構造を知ろう
	3h 心の中をそっとのぞいて みよう	コミュニケーション力	3h ストレスの対処の方法を 考えよう
			4h 友だちとの関わり方
			対人関係・コミュニケーション力

2007年度「あいあいタイム」の流れ（3学期）

恵我小		恵我南小	
みんなで力を合わせよう！		ききかた名人になろう！	
1 h セーの！	自己信頼・自己管理力・コミュニケーション力・対人関係	1 h 上手な話のききかた	対人関係 コミュニケーション力
2 h おとさないでね		2 h 朝のスピーチしっかりかけたかな	
3 h おちるなおちるな		3 h まねっこあてっこ	
4 h 宝物を見つけよう！			
自分大好き、友だち大好き 自分や友だちのいい所を見つけよう		自分の気持ちを相手に伝えよう	
1 h みんな、あのね	自己信頼・対人関係	1 h いっぱい言葉を伝えよう	自己信頼 コミュニケーション力
2 h 心のオニさがし		2 h 身ぶりで言葉（気持ち）を伝えよう	
3 h それがあなたのいいところ		3 h 必要な言葉を伝えよう	
		4 h 必要な言葉を伝えよう	
気持ちでつながろう		ホッとな関係つくろうよ	
1 h ちがったらあかんの！	対人関係・コミュニケーション力	1 h わたし大好き	自己信頼・対人関係 コミュニケーション力
2 h 友だちルポライター		2 h Goodカード（ひとことキャッチ）	
3 h 自分アピール		3 h あったかい言葉かけ	
4 h うれしい温度計		4 h Iメッセージで伝えよう	
伝え合おう、つながろう		相手の気持ちも自分の気持ちもスッキリ	
1 h みんなが言葉で伝えて作れるよ 言葉で伝えることの大切さに気づこう	感情対処・対人関係・コミュニケーション力	1 h イライラアンケート	感情対処・対人関係・ストレス対処・コミュニケーション力
2 h 感情って複雑だね！ 感情のちがいに気づこう		2 h この先どうなる？	
3 h スパイダーネット クラスみんなでつながろう		3 h ストレスのコントローラー	
4 h グループワーク 手のひらいっぱいメッセージ		4 h 気持ちを落ち着かせるいろんな方法	
ストレスなんてこわくない！		つながりあいあい・わきあいあい	
1 h 仲間はずし	ストレス対処・決断と問題解決・ピアプレッシャーへの対抗	1 h 今、こんな気持ち	自己信頼・対人関係・コミュニケーション力
2 h ストレスってなんだろう		2 h 私を変える方法	
3 h ストレスとうまくつきあおう		3 h 私を変える方法	
4 h ストレスに負けない自分にしよう		4 h 見方を変えると	
5 h 上手な断り方		5 h こんなときどうする？	
お互いを分かり合うために		いろんな見方いろんな声かけ	
1 h わたしはだあれ	コミュニケーション力・対人関係	1 h 言葉ひとつで大ちがい	決断と問題解決 コミュニケーション力 対人関係
2 h にんげんコピー		2 h 表現ひとつで大ちがい	
3 h 四つ葉のクローバー		3 h 信じるって、ステキ	
		4 h ありがとうを忘れない	

2008年度「あいあいタイム」の流れ(1学期)

		恵我小	恵我南小	
1年	よろしくね		どうぞよろしく	
	1 h よろしくタッチ	コミュニケーション力 対人関係	1 h あいあいタイムってなんだ	
	2 h よろしくタッチでいえるかな		2 h 大きな声でいえるかな、自分の名前	
	話そう・伝えよう		3 h みんなともだち	
	1 h あいさつリレーでぴったんこ	コミュニケーション力 対人関係	いっしょにあそぼう part2	
	2 h 魔法のマイク		1 h ルールを守ってフルーツバスケット	
	3 h こんなときってなんていいう?		2 h みんなで協力なべなべ大作戦	
			3 h いっしょにあそぼう	
	いっしょにあそぼう		みんなの名前おぼえてるかな	
	1 h あいさつあくしゅ	感情対処 コミュニケーション力 対人関係	1 h 大きな声で言えるかな自分のなまえ	
	2 h なかまにいれて		2 h おぼえてもらおうわたしの名前	
	3 h あいあいキャッチボール		聞き方名人バージョンアップ	
	4 h あいあいバスケット		いっぱいいっぱい見つけたよ	
2年			1 h 友だちのことをよく見よう よく知ろう	
			2 h 気づいたよ友だちのすてきなところ	
			3 h 大事にしてねわたしの中のパワフルパワー	
	みんなよろしく!		みんなとつながろう	
	1 h 自己紹介	感情対処 対人関係 自己信頼 コミュニケーション力	1 h みんなでキャッチнейム!	
	2 h 友だちbingo		2 h 新聞ジグソー	
	3 h 誕生日チェーンを作ろう		3 h うしろすがたは誰でしょう?	
	4 h 輪くぐり		4 h 名前合わせゲーム	
	友だちをキャッチ		5 h 1分間スピーチ	
	1 h 「?」をキャッチ!	コミュニケーション力 対人関係	6 h 仲間をさがそう	
	2 h ハートをキャッチ!		7 h 8 h サイコロトーク	
	3 h ハートでつながろう!			
3年	学年学級開き		友だちのことを知ろう	
	1 h サインをゲット	感情対処、対人関係 コミュニケーション力	1 h 4つの窓	
	2 h グループを作ろう		P R 大作戦	
	あなたのこと知りたい		1 h 友だちにインタビュー	
	1 h なんでもわかつてね	コミュニケーション力 対人関係	2 h 友だちを紹介しよう	
	2 h 聞き方だいじょうぶ?		班のつながりを深めるぞ	
	3 h 名探偵ダレナン		1 h あいあいキャッチボール	
	4 h 友だちテレパシー		2 h いつまで乗れるかな?	
			3 h 班対抗 お絵かきリレー	
			4 h ワクワク席替え	

	力を合わせて				
4年	1 h 林間に行こう	コミュニケーション力 対人関係			
	2 h 上手につめてね				
	3 h みんなでおどろう				
学年開き		友だちと仲良く！			
5年	1 h 仲間はずし	コミュニケーション力 計画性	1 h カードトーキング	自己信頼	
	林間成功大作戦		2 h いいところさがし		
	1 h 新聞ジグゾー		3 h 新聞ジグゾー		
わたし発見！友だち発見！		いろいろコミュニケーション			
6年	2 h 形があったよ	自己信頼 コミュニケーション力	1 h 声を出さずにコミュニケーション	コミュニケーション力 対人関係 決断と問題解決	
	3 h みんなでフォークダンス		2 h 目かくしコミュニケーション		
	1 h ご注文はどっち？		3 h 動けなくてもコミュニケーション		
みんなで1つの「わ」になろう		2 h 本当の気持ちちは・・・？	4 h いろいろコミュニケーション		
みんなで1つの「わ」になろう			5 h いろいろコミュニケーション		
どんな気持ち					
1 h こころ読めますか		コミュニケーション力 対人関係	1 h ペアをつくりよう	コミュニケーション力 対人関係 計画性	
2 h 新聞紙もとにもどった「わ」！			2 h ペアで活動しよう ～児童会行事		
3 h パズルでGO！ ～こんなのでできた「わ」！			3 h いつもの縦割り遊び		
4 h みんなで1つの「わ」になろう			4 h 一学期をふりかえってみよう		
1 h 分かりやすく伝えよう1					
2 h 分かりやすく伝えよう2		コミュニケーション力 対人関係	1 h わたしキラリ	自己信頼 対人関係	
3 h 気持ちの伝え合い			2 h みんなキラリ		
			3 h みんなキラリ 2		
			4 h 未来のわたし 輝けキラリ		

4) 恵我幼稚園

共に育ち合える人間関係づくりをめざして
～4・5歳児のかかわり“あいあいタイム”の中で～

近年、子ども達を取り巻く環境は、核家族化や少子化が進み、子育てに不安を感じている保護者が多いようである。住宅も点在し、入園するまでお互いに出会うことがなく、親子共に近隣の人達と接する機会が少なくなってきたているように思える。

また、入園後の子どもの様子を見ても、自分の気持ちを表現する力が弱かったり、友達とのかかわり方が分からず、戸惑う姿がみられたり、日常生活の中で、人とのかかわりが希薄になっているように感じる。

そこで、本園では昨年度より、日々の園生活の中で一番身近な4・5歳児のかかわりを大切にし、“あいあいタイム”という遊びの時間を設定し、子ども同士が認め合い、共感し、育ち合えるような友達づくりをめざし、実践を進めるにした。

重ねて、七中校区としても幼・小・中11年間の見通しをもった子どもの育ちを見据え、カリキュラムを検討し、『地域の中で育つ子ども』を大にすることにする人間関係づくりに取り組むことになった。

※別紙年間計画参照

《子どもの姿》

=始業式に参加しよう（4月）=
「着替えの手伝いをしてあげる



=園内探検をしよう（4月）=
「幼稚園にはいろいろな部屋があるよ」



=ペア（4・5歳児）を作ろう（5月）=
「このお兄ちゃんと遊びたいな」



=地域の公園へ散歩にいこう（5月）=
「ブランコ押してあげるね」



《取り組みのなかで見えてきたこと》

- ・“あいあいタイム”的活動で、教員が意図的に4・5歳児のかかわる活動を多く取り入れたことにより、互いを意識し、刺激を受けて遊びに意欲的に取り組めるようになった。
- 5歳児は年長児として遊びをリードし、“優しく接すること”や、“頼られることの嬉しさ”“一緒にできた満足感”を感じたようである。
- 4歳児は“一緒に遊ぶ楽しさ”や“助けてもらえる嬉しい気持ち”“信頼する気持ち”をもつようになった。
- ・行事や教員が意図した遊びだけでなく、普段の遊びの中でもペアの友達を意識し、困っていたら声をかけたり、遊びに誘い合ったりする姿もみられ、自らかかわりをもつこともできるようになってきた。
- ・昨年度の課題より、ペアづくりについては教員間で十分話し合い、子どもの思い、相性、時期などを考慮してきたので、より良い友達関係をつくることができつつある。
- ・教員も“あいあいタイム”的活動を通して自分のクラスだけでなく、園全体の子どもの様子を知り、理解する手立てとなった。今後も教員間の共通理解を図り、より良い保育ができるように計画を立て、進めていきたい。

=陣取り遊び（6月）=
「こっちがあいてるよ」



=いす取りゲーム（6月）=
「一緒に座るの楽しいね！」



=七夕の笹飾り作り（6月）=
「ここに糊をつけて貼るんだよ」



“あいあいタイム” 年間計画

松原市立恵我幼稚園

月	ねらい		内容 ★写真参照 ※下線は5歳児のみ	ターゲット・スキル
	4歳児	5歳児		
4	・多くの友達や5歳児とかかわることの楽しさを知る ・5歳児に手伝ってもらったり、教えてもらったりすることを嬉しく思う	・昨年の経験を活かし、友達と誘い合って遊ぶ ・年長児になった自覚をもち、自ら進んで友達や5歳児とかかわる 遊びのルールや片付け、着替えの方法などを少しずつ4歳児に伝える	★誘い合って『始業式』に参加しよう ★『園内探検』をしよう ・園庭で一緒に遊ぼう ★降園準備を手伝ってあげよう ・身体測定を手伝ってあげよう ・『つどい』に参加しよう	自己管理力・対人関係 対人関係・情報活用力 コミュニケーション力 自己信頼・対人関係 自己信頼・対人関係 コミュニケーション力
			★『子どもの日のつどい』、散歩・園外保育に参加しよう ・『連合運動会』を通して遊びを楽しもう ★ペアを作ろう(4・5歳児)	自己信頼 コミュニケーション力 自己信頼・対人関係 対人関係・感情対処
	・ペアの5歳児を知り、散歩・園外保育など、一緒に参加し楽しむ	・4歳児のペアを知り、年長児として生活や遊びの中できかわる	★様々なゲームや運動遊びをしよう ・夏の遊びを楽しもう ・にこにこランチでペアと一緒に昼食を食べよう ★5歳児が七夕飾りの作り方を教えてあげよう	対人関係・自己信頼 自己管理力・情報活用力 自己管理力 コミュニケーション力 自己信頼・情報活用力 対人関係
	・5歳児と一緒にゲーム遊びを経験する ・5歳児と「好きな遊び」の時間に、一緒に遊ぶことを楽しむ	・4歳児と一緒にゲーム遊びをし、方法を伝える ・「好きな遊び」の時間に一緒に遊ぶことで自然に遊びを伝える	・『七夕のつどい』や『夏祭り』に参加しよう ・夏の遊びを楽しもう ・プール遊びをしよう	対人関係 コミュニケーション力 自己管理力・情報活用力 自己信頼
	・友達や5歳児と一緒に喜んで園行事に参加する	・4歳児をリードしながら園行事を進める	・『水中運動会』をしよう	自己信頼・対人関係 コミュニケーション力
8	・近所の友達や気の合う友達と誘い合って遊ぶ		・『高齢者のつどい』に参加しよう ・ペアを組み変えよう	対人関係 コミュニケーション力 自己信頼・対人関係
9	・5歳児の行動を見ながら高齢者のつどい・運動遊びに参加し、刺激を受ける	・自ら活動することで、4歳児に方法や楽しさを伝えていく	・『運動会』をしよう	計画性・自己信頼 自己管理力・対人関係 コミュニケーション力
10	・4・5歳児の縦割りチームを作り、『運動会』に取り組み、互いに刺激し合い、頑張りを認め合う		・『運動会』をしよう	自己信頼・対人関係 ・コミュニケーション力 ・計画性
11	・『恵我幼まつり』に向けて縦割りグループで取り組み、一緒に遊びを展開し、達成感を味わう		・『恵我幼まつり』をしよう	自己信頼・対人関係 ・コミュニケーション力 ・計画性
12	・一緒に『お楽しみ会』に参加し、共通の経験を楽しむ		・『お楽しみ会』に参加しよう	コミュニケーション力
1	・伝承遊びを伝え合い刺激を受け合う ・『絵画展』をし、楽しい表現を交流し、認め合う		・こままわし、カルタ取りなどの遊びを教え合おう ・『絵画展』をしよう	自己信頼・自己管理 対人関係 自己信頼
			・『発表会』をしよう ・お別れ園外保育に参加しよう	コミュニケーション力 自己信頼・対人関係 計画性 自己管理・対人関係
2	・『発表会』を見せ合う中で、互いのよさを認め合い、達成感・満足感を味わう		・『お別れ会』をしよう ・『卒園式』に参加しよう	自己信頼・対人関係 感情対処・計画性
			・お別れ園外保育に参加しよう	自己管理・対人関係
3	・5歳児に感謝し、卒園を祝う準備をする ・新しい4歳児を迎えることに期待し、準備をする	・卒園を迎える人に感謝する ・4歳児に遊びや当番などの方法を引き継ぐ	・『お別れ会』をしよう ・『卒園式』に参加しよう	自己信頼・対人関係 感情対処・計画性

